

保存版

国公立全82医学部 最新受験ガイド

医学部に入る

週刊朝日
進学MOOK
朝日新聞出版

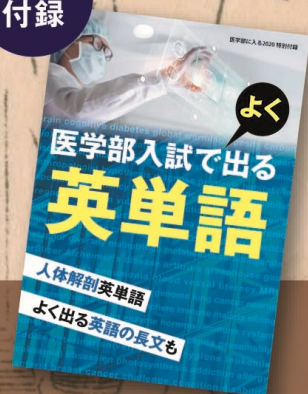
2020

最新データで判明!

医学部に強い249高校

プロが教える
医学部入試の傾向と対策

巻頭
付録



2020年度入試を制する!

「難易度」×「学費」×「歴史」で分析

最新版!

医学部マップ



オープンキャンパスの副責任者を務めた4年生の山下侑希さん(右)と、3年生の森田真菜さん(左)



来て、体験して! 医療の力

救急医療や画像検査を体験できる人気のイベント
聖マリアンナ医科大学のオープンキャンパス。
6年目となる今回も大盛況のうちに開催されました。



画像診断コース

レントゲンやCT、MRIの画像から「あやしい影(=病変)」を見つける方法を学ぶ。



BLS/気管挿管コース

BLS(一次救命処置)と、ACLS(二次救命処置)の一部を体験。気管挿管は本学附属病院の麻酔科医が協力。



解剖・病理標本コース

全身の骨格標本のほか、さまざまな臓器に生じた、さまざまな病変の切除標本を展示。



ドクターカーコース

小・中学生にも人気のドクターカー。「走っている間に救命処置もできます」という説明に、「すごい!」の声が。



医療器具コース

さまざまな診断・治療器具が展示された医療器具コーナー。



超音波コース

医学生を“模擬患者”として、腹部の超音波画像検査(=エコー)を体験。

聖マリアンナ医科大学のオープンキャンパスは、ただキャンパスを開放し、入試説明会を行うだけのイベントではありません。医療という仕事の尊さ、医学を学ぶことの素晴らしさを、医学部志望の高校生たちに伝えたいとの願いから、毎年学生が企画し、学生の手で開催・運営されているのが、本学のオープンキャンパスの特徴です。来場者も年々増え、今年は雨模様の天候にもかかわらず、約900名が来場しました。

オープンキャンパスの最大の目玉は、医療の現場で日々行われている救命処置や画像検査などの実際を、自分の目で見て、手を動かして学べる、医学部ならではの「医学体験コース」がいくつも設けられていること。今年も訪れた高校生たちが医学生の説明と指導を受けながら、初めて経験する処置や検査などの手技に一生懸命に取り組んでいました。

例えば、「超音波コース」では

“本物”のエコー(超音波画像診断装置)を使用。来場者にエコーのプロブを手渡しで、“患者”に扮した医学生のおなかに当ててもらい、見たい臓器がモニターに映し出されると、その画像をプリントアウトし、来場記念に持って帰ってもらおうという趣向でした。

また、「BLS/気管挿管コース」では、BLS(一次救命処置)の人工呼吸やAED(自動体外式除細動器)操作を体験した後、ACLS(二次救命処置)の一環である気管挿管の手技を体験。来場者が見事、気道確保に成功すると、会場から拍手が起っていました。

1年生のときから実行委員としてオープンキャンパスの運営に関わり、今年は全体の総責任者を務めた4年生の児玉佳奈さんは、次のように語っていました。

「今回も、総勢80名の実行委員とともに4月から準備を重ね、みんなの頑張りのおかげで、これまでも増して素晴らしいオープンキャンパスを実現することができました。また、引き続き、勉学に精進しこれまで培ってきた知識・技能を受験生に還元できるよう実行委員一同、励んでいきたいと思っております。来年度のご来場をお待ちしております」



入試説明会

来年度入試の説明を聞く高校生と保護者。この後、日頃の授業を再現した模擬講義が行われた。



新病院完成予定図。入院病棟は2023年、外来などを含め全体は24年完成する予定。



医学部受験は、厳しい長期戦。
一足先に夢をかなえた先輩が、勉強のコツや
モチベーションの保ち方などを伝授します。

苦手な科目の
克服は？

オススメの
勉強法は？

新1・2年生が教える

「医学部合格のコツ」

取材・文 柿崎明子 (P 21～23、P 26～27)、稲田砂知子 (P 24～25)
写真 片山菜緒子 (写真部)、高野楓菜 (P 25 物撮り)



現役時代も浪人時代も、予備校に通わず計画を立ててひとりで勉強。「医師になりたい」その強い思いが、合格を引き寄せました

聖マリアンナ医科大学

なみ き こ こと の

並木ここ乃さん

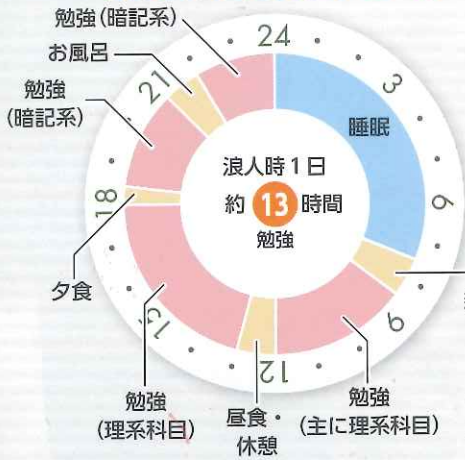
共立女子中学・高等学校出身
1998年生まれ

大きな目標を立てたら、 逆算して計画的に勉強

幼い頃から医師になりたいという憧れを抱いていた並木さん。大学進学を前に、目標を医学部に決めました。医学部は学費が高額なので、経済的な負担を減らすため自宅で勉強しました。現役では合格を取れず浪人することに。

「周囲に医学部をめざす友だちは少なく、自分でネット調べたり、進学イベントに参加したりして情報を集めました」勉強のスケジュールは、まず大まかに過去問を始める時期を決め、それから逆算していつまでに基礎を固めたいいか、問題集を終わらせるには1週間は何ページあたったらいいか目標を立てました。知識を定着させるために、一度やった問題を2日後、1週間後、2週間後と間をあけて覚えるまで繰り返しました。「浪人1年目で無事合格できたときはほっとしましたね。患者さんの気持ちに寄り添える医師になりたいと思います」

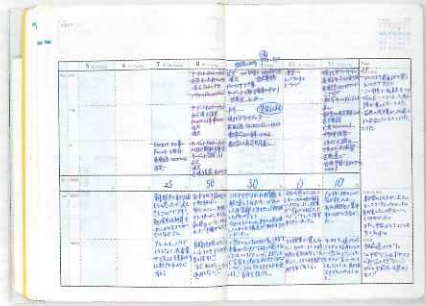
受験期1日のスケジュール



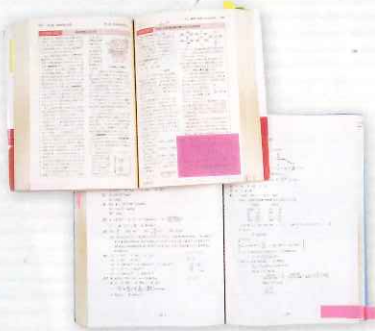
数学や理科など頭を使う教科は朝や昼に、逆に英語などの暗記ものは夜に勉強しました。また、わからない問題は日にちをおいて繰り返したので、スケジュール管理は必須。その日何を勉強したか、毎日手帳に記入しました

朝食・
新聞の書き写し

おすすめの勉強法



医学部受験の おすすめ参考書



数学が苦手なら、『フォーカスアップ』がオススメです。難しい問題集には手を出さずに、高校時代から使っていた、基礎的な問題集に繰り返しあたりました

医学部を目指すきっかけ

優しいお医者さんに会った

小学2、3年のころ遠視の矯正で通っていた眼科の先生が、優しい言葉をかけてくれたり、人形やシールをプレゼントしてくれたり。お医者さんってすてきだなと、ばくぜんとしたあこがれを抱いていました

大学進学を考えたとき、 医師の道しかないと考えた

高校1年の文理分けをきっかけに「自分は将来どういう道に進みたいのか」、本気で向き合い、医師になりたいと医学部への進学を真剣に考えるようになりました

強い意志があれば、あなたも夢を実現できます。夢で終わらせないで!



化学は得意科目。ネットで調べ、難関大向けの『化学の新研究』『化学の新演習』の参考書と問題集のセットで勉強しました。合格に導いてくれた最強のペアです

併願した医学部

- 聖マリアンナ医科大学
- 東邦大学
- 東京女子医科大学
- 東京医科大学
- 昭和大学
- 日本大学

「聖マリアンナ医科大学」を進学先に決めた理由は

1年次から本格的な医学の授業が始まること。医師になる覚悟ができます

医学部受験で
苦手な科目は

数学

克服は

その単元の理解できるところまでさかのぼって、基礎から積み上げていくようにしました。得意とまていなくても、苦手にならないように心がけました

受験期の挫折

合格できるか不安を感じた

気分転換は...

模試のA判定を思い出す

不安にさいなまれたときは模試のA判定を思い出し「大丈夫!」と気持ちを鼓舞しました

受験当日持っていたもの

家族が湯島天神で買ってきてくれた、お守りとボールペンのセットは入試に必ず携帯しました。予備校に通わず自宅で勉強していたので、家族には気を使わせてしまったかも。勉強に行き詰まったときには、家族との何げない会話で息抜きになりました

